

虐待防止・歯科研究会
設立集会
大会プログラム・抄録集

2015年6月7日（日）

日本大学歯学部 2号館第一講堂

虐待防止・歯科研究会 設立集会を開催するにあたって

2000年に児童虐待防止法が制定されて以来、児童虐待防止に向けた取り組みが全国レベルで整備されてきています。しかしその発生件数は留まることを知らず増え続け、昨年（2014年）には累積死亡例が1000人を超えたことが報告されています。

一方、子どもの口腔疾患を家庭環境のバロメーターの一つとして考えることは、判別困難なネグレクトという状況の発見につながる可能性が高いことが明らかとなってきています。しかしこれらの状況分析は各種学会で散発的に取り上げられた情報によるのみで、系統化された総合的な対策を立てるには至っていないのが現状と思われます。

このような現状に鑑みて、組織化、集約化、義務化を計り、虐待予防に関する諸問題を歯科領域から専門的に討議する場として、17名の発起人を擁して本研究会が設立される運びとなりました。

本研究会開催にあたっては、日本歯科医師会理事 佐々木 俊則様、日本学校歯科医会副会長 由井 孝 様のご挨拶を仰ぎ、子どもの虹情報研修センター長 川崎二三彦先生による基調講演、これまで虐待防止活動に取り組まれてこられた諸氏による講演、シンポジウムを企画いたしました。本研究会の設立が明日への発展の第1歩となり、虐待・ネグレクト防止の一助となりますことを切に希望いたします。

発起人代表 渡部 茂

発起人一同

稲葉大輔 岩手医科大学歯学部予防歯科学分野准教授
井上美津子 昭和大学歯学部小児成育歯科学講座教授
岩原香織 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座講師
香西克之 広島大学大学院医歯薬保健学研究院小児歯科学研究室教授
迫田隅男 九州保健福祉大学学長
佐藤哲郎 川崎市歯科医師会常務理事
佐野正之 富山県あすなろ小児歯科医院院長
清水武彦 日本大学松戸歯学部小児歯科学講座教授
白川哲夫 日本大学歯学部小児歯科学教授
杉山精一 医療法人社団清泉会杉山歯科医院院長
都築民幸 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座教授
仲野道代 岡山大学大学院医歯薬総合研究科小児歯科学分野教授
宮城 敦 神奈川歯科大学大学院障害者歯科学分野准教授
森岡俊介 東京都歯科医師会
山崎健次 広島県歯科医師会常務理事
吉田美香 奈良県橿原市歯科医師会理事
渡部 茂 明海大学歯学部形態機能成育学講座口腔小児科学分野教授

子ども虐待防止世界会議名古屋 2014 出席者、日本小児保健協会会員、虐待防止
等地域の活動にかかわっておられる人を中心として

五十音順、敬称略

大会プログラム

13:00～ 設立集会

開会の辞

渡部 茂（発起人代表）

御 挨拶

佐々木俊則（日本歯科医師会理事）

由井 孝（日本学校歯科医会副会長）

基調講演（座長 渡部 茂）

川崎二三彦（子どもの虹情報研修センター長）

発起人講演（座長 井上美津子）

岩原香織¹, 都築民幸²（日本歯科大学歯科法医学講座 講師¹, 教授²）

森岡俊介（森岡歯科医院院長）

渡部 茂（明海大学歯学部口腔小児科学分野教授）

シンポジウム「地域での虐待防止の取り組み」（座長 白川哲夫）

吉田美香（奈良県橿原市歯科医師会理事）

佐藤哲郎（川崎市歯科医師会常務理事）

山崎健次（広島県歯科医師会常務理事）

渡辺幸嗣（明海大学歯学部口腔小児科学分野講師）

基調講演

わが国の児童虐待の現状と課題

川崎二三彦（子どもの虹情報研修センター長）

まずは、「虐待防止・歯科研究会」の設立おめでとうございます。私は児童福祉の分野で児童虐待の問題に取り組んできましたが、一昨年には、日本小児歯科学会が開催する児童虐待をテーマとしたセミナーに参加する機会を得、また昨年はISPCAN（国際子ども虐待防止学会）名古屋大会でも歯科医の皆さま方のシンポジウムに参加させていただきました。

こうした経験を通じ、児童虐待問題の解決にあたって歯科医の皆さま方の果たす役割の重要性を改めて認識し、今後とも、さまざまな場を通して相互の意見交換を行い、連携を深めることの重要性を痛感したところです。

さて、今回の設立大会においては、厚生労働省が公表してきた各種のデータに加え、平成25年に全国児童相談所長会が行った「児童虐待相談のケース分析等に関する調査研究」の結果なども紹介しながら、最近の児童虐待の実態や取り組み状況を報告し、現在の課題について考えたいと思います。

略 歴

京都大学文学部卒。京都府の各児童相談所で心理判定員（児童心理司）及び児童福祉司として、約30年あまり相談業務に従事。京都府宇治児童相談所相談判定課長を経て、平成19年4月から子どもの虹情報研修センター研究部長。本年4月から同センター長。現在、社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会委員長、日本子ども虐待防止学会理事など。

発起人講演 1

マルトリートメント・虐待の防止や対応における歯科医師の役割

岩原香織¹，都築民幸²（日本歯科大学歯科法医学講座 講師¹，教授²）

虐待の本質は「権利の侵害」と捉えることができ、この侵害の程度により、尊い命が失われたり、命に別状がなくても、体や心に大きな傷が残されたりというたいへん悲しい現実がある。

また、虐待と言っても、種類や程度、環境等に応じて、行えることはさまざまであり、一人一人の身体や口腔内状況、環境等を把握し、それらを総合した上で、適切な関わりを持つことが歯科関係者の専門性をもって行える診断、対応だと考える。

虐待に対し、多（他）職種連携が重要であると言われるが、これは歯科領域の職種だけでも同様の考え方ができ、重篤な状態に陥る前「マルトリートメント」の範疇に含まれる状態の子どもの発見や、取り返しのつかない状態に陥る前の大人に対するサポートも行えると考える。

われわれが行ってきた医学的診断の事例をお話しながら、歯科医師が行えること、多（他）職種との連携について再考する。

略 歴

岩原香織（いわはら かおり） 歯科医師・医学博士

現職：日本歯科大学 講師（生命歯学部 歯科法医学講座）

学歴・職歴等

- 1999年 日本歯科大学歯学部卒業
- 2000年 日本歯科大学歯学部附属病院 臨床研修修了
- 2001年 金沢大学医学部附属病院 歯科口腔外科・医員
- 2006年 金沢大学大学院医学系研究科 がん医科学専攻細胞浸潤学（歯科口腔外科）修了
- 2006年 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター・助教
- 2008年 金沢医科大学健康生態医学分野基礎系法医学部門・非常勤講師
- 2010年 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター・講師
- 2010年 杏林大学医学部法医学教室・非常勤講師

行政関係

東京都児童相談所協力医師

学会関係

日本子ども虐待医学会評議員

都築民幸（つづき たみゆき） 歯科医師・歯学博士

現職：日本歯科大学 教授（生命歯学部 歯科法医学講座）

学歴・職歴等

1977年 日本歯科大学歯学部卒業

1998年 日本歯科大学歯学部歯科法医学センター長（併任）

2001年 杏林大学医学部法医学教室・非常勤講師

2002年 日本歯科大学歯学部附属病院総合診療科・教授

2005年 日本歯科大学歯学部歯科法医学・教授（配置換）

行政関係

東京都児童相談所協力医師

学会関係

日本法歯科医学会理事長、日本歯科保存学会理事、日本外傷歯学会理事、

日本子ども虐待医学会理事

発起人講演 2

子ども虐待への歯科の関わり

森岡俊介（森岡歯科医院院長）

東京都歯科医師会の公衆衛生担当理事に就任後、平成 12 年に制定された「児童虐待の防止等に関する法律」の中に歯科の記載が一切記載されていなかったことに違和感を覚え、平成 14 年に児童相談所の一時保護所と乳児院を対象に児童虐待と歯科の関連について調査を実施しました。この結果、むし歯が多いことと虐待の関係などを明らかにし、東京都からの報告として一般報道でも話題になりました。また、公衆衛生学会や子ども虐待防止学会で、だけでなく三重県を始め多くの都府県などで報告させていただくこともできました。

また、この取り組みを始めてからは、私自身、診療室で子供の治療や、学校歯科検診、乳幼児歯科健診などで、子どもや保護者への接し方や健診内容に工夫もするようになりました。

子ども虐待の歯科の関わりは、歯科の特性を考えれば、まずは、かかりつけ歯科医として、虐待の予防と早期発見、また、不幸にして虐待された子どもへの対応のため歯科医学的観点からの情報提供です。今も、児童相談センター一時保護所で毎月 30 人近くの被虐待児に接していると。かかりつけ歯科医、学校歯科医としても、歯科界はまだまだ担うべき役割があるように思えます。

略 歴

1947・5・23 生

1972・3・25

東京歯科大学 歯学部卒

1976・3・31

東京歯科大学大学院歯学研究科 修了

1997・4・1-2005・3・31

社団法人 東京都歯科医師会理事(公衆衛生担当)

2005・10・1-2007・3・31

東京都板橋区児童虐待防止協議会委員

2007. 10. 1-2008・3・31

東京都 児童虐待ドクターアドバイザーシステム アドバイザー

2008・4・1-2009・3・31

東京都板橋区要保護児童対策地域協議会 代表者会議委員

2009・4・1-2011・3・31

社団法人日本歯科医師会 社会保険担当理事

1981・4・1-

東京歯科大学 非常勤講師

2006・4・1-

埼玉県立大学保健医療福祉学部非常勤講師

2010・4・1-

東京都立板橋有徳高等学校 定時制学校歯科医

発起人講演 3

虐待防止の歯科的研究

渡部 茂（明海大学歯学部口腔小児科学分野教授）

児童虐待（ネグレクト）と歯科との関係は 1977 年にすでに報告がみられる（Schwartz. S. et. al, JADA, 95:586-91, 1977）。そこでは暴力による歯の外傷についての記載がある。齲蝕との関連では、1986 年 Badger の報告（Pediat. Dent., 8:101-102, 1986）、日本では高野ら（小児歯誌、25:650-59, 1987）の報告がある。高野らの 1 例は虐待・ネグレクトと齲蝕の関係を直接的に疑うものではなかったが、2004 年森岡らの被虐待児童保護施設における調査報告により、両者の関係の強さが明るみに出た。この報告と相前後して同様の報告が数編みられ、以来 10 年、虐待・ネグレクトに関与する歯科医の取り組みは、学校検診結果を利用したアプローチ、施設保護児童への歯科的支援等の報告約 50 編（医中誌）に見られる。

これらの活動・報告は、かつて障害を持った子どもに対する歯科医療がそうであったように、献身的な一部の歯科医の、一隅に光を当てた活動に支えられてきたものであり、今後、以前増加の一途をたどる児童虐待に対峙するためには、これを我々の新たな視点としてとらえ、関係者の組織化、集約化、義務化を計ることは社会的な要請といっても決して過言ではない。講演では今後の課題を提起して議論したい。

略 歴

学歴・職歴等

1977 年 岐阜歯科大学（朝日大学歯学部）卒業
1977 年 同大学 助手
1982 年 北海道医療大学歯学部 講師
1985 年 同大学 助教授
1985～'87 年 Manitoba 大学 客員教授 (Oral Biology)
1995 年 明海大学歯学部 教授 大学院 教授

学会活動

日本小児歯科学会理事（副理事長06-08）、日本小児保健協会監事、日本子ども学会理事、
日本歯科薬物療法学会理事、日本小児口腔外科学会理事、日本健康医療学会理事、埼玉県小児保健協会理事。

シンポジウム「地域での虐待防止の取り組み」

～不適切な扱いから子どもたちを守るには～

小児歯科が最後の砦！・・・子どもたちの居場所

吉田美香（奈良県橿原市歯科医師会理事）

診療の合間に、2005年にさわやか歯科の北村義久先生主宰の「ネグレクトを知る会」に参加し勉強会を重ねて児童養護施設歯科ボランティアを開始し、県と県歯科医師会協働の児童虐待予防マニュアルを作成した、橿原市の子ども発達支援センターかしの木園での歯科支援を市から依頼され開始、酒本産婦人科で妊婦歯科健診をボランティアで開始し現在は市が妊婦歯科健診無料券配布に至る。

借金も完済し、開業15年でリリーデンタルクリニック閉院しさわやか歯科に合流させてもらった。やはり、子どもたちに集中したいと。リリーデンタルクリニックでとさわやか歯科キッズルームでの子どもたちの様子が違う、自閉症や発達障がいの子もたちもなんだか居心地よさそう。ログハウスの歯科医院で全部が自然な木目の木でできていて壁紙もないからか？光のトンネル？ボールプール？小さな木のお家？宙を舞うぬいぐるみ？砂場？ターザンロープ？空がみえる畳の部屋？親子でうんちのトイレ？患者さんは、毎日100人程。

去年から長期在宅療養児の歯科訪問の依頼が保健所や医科からあり開始、人工呼吸器装着の男の子たちや水頭症の女の子。この子どもたちこそ、「絶対にむし歯にたくないー！」と、そして食べることにも関わられたらと管理栄養士さんも参加してくれている。どの子どもたちも、元気に勇気のトンネルを通りやってくる、そして、またひとまわり変わって帰っていく。保護者たちもうれしそう。

リリーデンタルクリニックはひとつの成功だったと思う、でも、新しいことをやるとなるとその成功体験は時として邪魔にさえなる。

私も、みえない勇気のトンネルを通ってさわやか歯科にやってきた。

それは、豊かな心をもった多くの人々に出会えたからだと思う、最近。

略 歴

奈良県橿原市生まれ

常磐幼稚園・晩成小学校・八木中学校・金蘭千里高等学校卒業

1990年 鹿児島大学歯学部卒業

1990年～1993年 大阪大学歯学部小児歯科学研修医修了・研究

1993年～1995年 北村歯科医院勤務（神奈川県・藤沢市）

1995年～1998年 正田歯科医院勤務（奈良県・橿原市）

2000年～ 現在地に開業し、子育て中

（日本小児歯科学会認定医）

公益社団法人川崎市歯科医師会 子ども虐待防止の取組

佐藤哲郎（川崎市歯科医師会常務理事）

公益社団法人川崎市歯科医師会が子ども虐待に取り組む切っ掛けは平成 19 年度神奈川県歯科保健賞奨励研究を受託して平成 20 年 7 月から 21 年 3 月に「川崎市における乳幼児を含む被虐待児童生徒の実態調査」を行った事が端緒であり、結果として「口腔清掃状態の不良や未処置う蝕歯の放置のような虐待を疑うサインが出現する可能性があるため、歯科医師としてそれらの口腔内環境の変化を見落とさない慎重な対応が望まれる。」事を示し、「被虐待児はう蝕の本数が少ない時期に放置されることにより、多数歯のう蝕を保有するに至る可能性がある事を示唆している。」事を明らかにしました。この調査結果を受けて、本会は子ども虐待に対し「予防」「発見」「事後措置」の三本柱の取り組みを開始致しました。今回はその取り組みの内容をご説明させていただきますと共に最近発見されました障害者診療事業での虐待を疑う事例報告を併せて報告させていただきます。

略 歴

昭和 58 年 3 月 日本歯科大学卒業
昭和 62 年 3 月 日本歯科大学大学院修了（臨床系歯科補綴学）
昭和 62 年 4 月 日本歯科大学助手（平成元年 3 月まで）
平成 2 年 3 月 さとう歯科医院継承
平成 15 年 4 月 川崎市歯科医師会委員（地域保健部）
平成 17 年 4 月 川崎市歯科医師会理事（地域保健部）
平成 21 年 4 月 川崎市歯科医師会常務理事（地域保健部）
平成 23 年 4 月 川崎市歯科医師会災害対策検討委員会常務理事併任
平成 24 年 4 月 川崎市歯科医師会災害対策部常務理事併任
平成 25 年 4 月 川崎市歯科医師会常務理事（地域医療部、災害対策部） 現在に至る。

広島県歯科医師会の児童虐待防止に係る取組み

山崎健次（広島県歯科医師会常務理事）

広島県歯科医師会は平成 16 年に行政や広島大学と協同して、児童虐待防止対策会議を設置した。他職種の方々にも参加を要請し、児童虐待防止への歯科医師の係りについて検討を続けている。関連団体とも連携し、児童虐待防止マニュアル・リーフレットを作成し、家庭や学校とのネットワークを構築している。平成 21 年からは広島大学大学院の香西克之教授が中心となり、県内の一時保護施設で、虐待や非行で保護された子どもに対し、歯科医師が検診および生活状況調査を行っている。

学校歯科医は健康診断や日常の臨床で子どもたちと接する機会が多い。学校歯科検診後に健康診断票を縦覧すると、一部の児童生徒の、「齲蝕が異常に多い」「齲蝕が未処置で放置されている」「急に齲蝕が増えた」など不自然な状態や、その他の多くの気づきを得ることができる。学校歯科医はそのような情報を学校側に伝え、子育て支援と児童虐待の芽摘み策になるよう努めている。

略 歴

生年月日：昭和 35 年 10 月 10 日

出身校：日本大学松戸歯学部

略 歴：

平成 元年 3 月 日本大学松戸歯学部卒業

平成 元年 4 月 愛育歯科診療所（東京都中野区）勤務

平成 5 年 8 月 千田町歯科クリニック（広島市中区）開業

平成 17 年 4 月 広島県歯科医師会理事（公衆衛生部担当）

広島県歯科衛生連絡協議会理事

広島県学校保健会監事

平成 19 年 4 月 広島県歯科医師会常務理事（公衆衛生部担当）

広島県学校保健会常任理事

平成 21 年 4 月 日本学校歯科医会理事（平成 23 年 3 月まで）

平成 25 年 4 年 広島県歯科医師会常務理事（地域歯科保健推進室長）

平成 25 年 10 月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科非常勤講師

小児の養育環境と齲蝕罹患状況

渡辺幸嗣（明海大学歯学部口腔小児科学分野講師）

平成 23 年の歯科疾患実態調査によると、小児の齲蝕歯数は、昭和 62 年と比べて劇的に減少している。確かに、日本全体としては、小児の一人当たり齲蝕歯数は減少傾向にあるものの、小児各個人に着目すると、齲蝕が 1 本もない小児と多数の齲蝕歯を持つ小児に分布が二極化してきているという特徴がみられる。保護者が適切に小児を養育しなければ、齲蝕は容易に発症してしまうことは周知の事実であり、ランパントカリエスがネグレクトの患児でみられると言われていることの所以である。そこで、明海大学歯学部附属病院小児歯科外来では、受診した患児を対象に、患児の性別、年齢、家族構成、年齢相応の睡眠時間確保の可否、おやつの種類、おやつの回数（1 回と 2 回）、清涼飲料水摂取習慣の有無、歯みがきの回数、保護者による仕上げ磨きの有無についてアンケート調査を行い、項目ごとに患児を群分けし、齲蝕歯数を群間で比較し、小児養育環境においてどの要因が小児の齲蝕歯数に影響を与えているのかを検索中であり、いささかの知見を得たので報告する。

略 歴

平成 15 年 長崎大学歯学部歯学科卒業
平成 19 年 九州歯科大学大学院博士課程口腔機能発達学分野修了
平成 19 年 九州歯科大学口腔機能発達学分野特別研修員
平成 20 年 九州歯科大学歯科侵襲制御学分野医員
平成 21 年 明海大学歯学部口腔小児科学分野助教
平成 24 年 明海大学歯学部口腔小児科学分野大学院助教
平成 25 年 明海大学歯学部口腔小児科学分野講師